

独立歩才四七大隊 略

年月日

概

要

独立混成才十一旅団独立歩兵才四七大隊

編成並に編成改正

軍令陸甲才十六号政り

編成改正着手

編成完結

軍令陸甲才十六号に依り

編成改正着手

編成完結

才一回編成當時の大隊長氏名

大隊長

陸軍大佐

大沢 勝二

副官

陸軍少尉

橋村 正夫

略号

四一

四言

略号

二二〇

二三八

昭五、五八 〃 七、三三	<p>深陽界深陽に於て同地附近警備 浙川沿岸作戦の爲副長後藤少佐以下約八〇〇名出動す 後函隊はヲ三、三四中队を基幹とし西山大尉留守隊長となり深陽に在りて同地 附近の警備</p>
昭五、二二八	<p>同軍軍令陸甲ヲ十八号に依り部隊主力たる後藤少佐以下の部隊は独立歩兵ヲ 二四〇大隊となり我田部隊を基幹とし新に独立歩兵ヲ四七大隊を編成前任務 を続行す</p>
四、二五	<p>自六県に於て同地附近の警備</p>
九、二五	<p>蘇州に後駐</p>
昭三、三三四	<p>上海に後駐</p>
三、一九	<p>内地帰還のため上海出帆</p>
三、二四	<p>備多上陸</p>
	<p>陸軍大尉菊谷隆夫以下一〇二〇名同日同地に於て除隊召集解除 陸軍大尉堀田周外一名後務監理のため後出す</p>

昭三、四二〇	部隊縮成以来部隊長の異動
六九、五	陸軍大佐 大 沢 勝 三
一五、五、一〇	1 須 川 恒 雄
三、三二八	陸軍少佐 後 藤 淳
昭五二	陸軍大尉 堀 田 周
二五	特殊なる人員の転出転入
昭三、三二八	中隊、中隊長以下一八〇名 肇部隊 (固有部隊番号不詳) に転属し新に
四一	部隊内人員を基幹とし
六一	中隊を縮減す
	後少佐以下の部隊主力約八〇〇名浙江省温州に於て独立歩兵第三四師大隊編成基幹となり転出す。
	西山大隊以下三名本土兵備要員として出向
	宮本中尉以下二六名本土兵備要員として出向

(2)

2040

第五六三〇

五二二八

二二八

二二八

三三三三

藤井大尉以下七五名ヲ三二師団より転入

渡辺曹長以下二二名北支軍より転入

柏然軍曹以下二三名独立歩兵ヲ四十九大隊より転入

石田中尉以下四〇名独立歩兵ヲ四六大隊より転入

部隊復員時に於ける所屬基幹部隊

ヲ六十師団歩兵ヲ五九旅団独立歩兵ヲ四七大隊

復員総括

復員時の大隊幹部隊氏名

大隊長

陸軍大尉

堀田 周

副官

中尉

浜田村 雄

第一中隊長

大

藤井虎 雄

第二

大尉

菊谷隆 次

第三

中尉

石田敏 男

第四

中尉

山本公 嗣

(52)

2041

支外 16

才五中隊長	陸軍大尉	松原義夫
榎野中隊長	中尉	長尾力
歩兵砲中隊長	中尉	大村耕一郎
復員時の人員	一一二〇名	
内訳 除隊召喚解除人員	一〇三三名 (将二八 准士官八 下士官一五七 兵八三八)	
軍属一)		
生死不明 所在不明 一名		
一三名		
入隊者		
八四名		

(54)

第六十師團獨立歩兵第四十八大隊累尸

年月日	概 要
昭和三〇	<p>部隊復員（編成）</p> <p>完結時に於ける折尾基幹部隊及編成人員</p> <p>軍令陸甲中八号に依り、独立混成中十一旅團、独立歩兵第四十八大隊を中華民国江蘇省無錫軍兵場に於て編成完結す。</p> <p>不編成基幹部隊</p> <p>独立歩兵第四十八大隊</p> <p>口編成人員</p> <p>兵科將校三九名、准士官曹長三一名、軍曹伍長一〇二名、兵一〇五三名（増加配属五〇を含む）</p> <p>各初將校六名、准士官、下士官一六名、衛生兵三三名</p> <p>合計 一二七四名</p>

(55)

2043

昭三、二二五	<p>軍令陸甲才十八号に依り「コ」号作戦出動中へ大隊主力の部隊長陸軍大尉北原岩男以下六二名が三一師団独立歩兵才五百九一大隊編成す。</p> <p>新に残留隊陸軍中尉渡辺正以下九五大名並に他部隊よりの補填人員を以て</p>
二二八	<p>中華民國江蘇省無錫県無錫に於て獨立歩兵才四八大隊編成完結す。</p> <p>一、編成基幹部隊</p> <p>獨立歩兵才四八大隊</p>
昭三、四二〇 六八一八	<p>行 動</p> <p>中華民國江蘇省無錫県無錫に在りて無錫、江陰地区清鄉工作並に同地区警備に從事す。</p>
一八九、三九	<p>部隊主力（一機五中隊、機関銃一中隊）</p>
一九、一、三七	<p>歩兵砲一小隊）を以て浙江省紹興蘭山同地区警備に從事す。</p>
四一九	<p>部隊主力（一機五中隊、機関銃一中隊）</p>
五、一八	<p>歩兵砲一小隊）を以て京漢作戦に参加す。</p>
大、五 三、二二八	<p>部隊主力（一機五中隊機関銃一中隊、歩兵砲一小隊）を以て「コ」号作戦</p>

中支内 17

云三二九
八二四

復員完結

一、日時 昭二六、二、二

二、場所 福岡県筑紫郡二日市町

に添加す。

中華民國江蘇省吳錫原吳錫に在りて同同知地区警備に從事す。

(57)

2045

第六十師団歩兵中五旅団獨立歩兵中四九大隊 略歴

年月日	要
昭二七年	<p>中六〇師団歩兵中五旅団獨立歩兵中四九大隊 部隊縮成時の所屬基幹部隊 獨立混成中十一旅団獨立歩兵中四九大隊 軍令陸甲中八号に依り</p>
四一	<p>縮成改正に着手</p>
四二〇	<p>縮成完結</p>
縮成時の幹部名	<p>大隊長 副官 中一隊長 中二中隊長 中三</p>
陸軍大佐	箕浦 元義
陸軍少尉	竹内 正実
中尉	坂谷 正夫
少尉	藤井 正弘
中尉	長 夏 清

昭五、四、二〇
六三、九

六三、一〇
三、八一四

三、九、二三

三、三、七

大隊編成時の人員

一四〇名

編成完結時の部隊所在地

中華民国江蘇省武進県常州

行 動

常州附近の警備及海南線鉄道警備並蘇州地区ヲ三期清郷工作ニ從事

常州附近の警備及海南線鉄道警備並蘇州地区ヲ加期清郷工作ニ從事

部隊蘇州に現駐

部隊は上海に現駐

部隊編成以來の大隊長の異動

才五

松岡純中隊長

歩兵砲

陸軍中尉

流田 城

古 瀬 正 家

北 里 海 夫

昭三三九

卷令 陸軍省

独立歩兵第四十九大隊長

陸軍大佐 箕淵元義

被補善熾寺師團兵務部長

保定幹部候補生隊中隊長

陸軍少佐 小沢千尋

被補独立歩兵第四十九大隊長

特殊なる人員の転出（転入）

昭三二二〇

陸軍中尉殿教雄以下二百名を立派成方大隊團（警兵團）

編成要員として転出

昭三二二八

陸軍中尉水田倉敷以下五百名を一独立警備隊（矢石兵團）に五独立警備隊

編成要員として転出

大隊復員完結時に於ける前原基幹部隊

第六十師団歩兵第五十五旅団独立歩兵第四十九大隊

部隊博多港上陸復員完結

大隊復員完結の際の幹部名

昭三三三四

昭三、三一九

部隊は内地帰還の途
輸送指揮官山部少佐以下四二〇名上海港出帆
大隊飯員完結時の人員

一、二、六、六名

大隊長	陸軍少佐	小沢千尋
副官	大尉	藤井正弘
第一中隊長	大尉	大場忠夫
第二	大尉	狩野惣七
第三	大尉	中村清
第四	中尉	谷口貞雄
第五	大尉	駒川五郎
機関銃中隊長	大尉	清野淳次郎
歩兵砲兵中隊長	中尉	鈴木日出男

(6)

2049

昭六四八

昭五六一六
昭五三一六

昭三一〇
昭八一四

昭五五一〇

独立歩兵第一二大隊 崑山地区

独立歩兵第一三大隊 南浜地区

第一四大隊 嘉興地区

敵司令部は上海中心区に位置し上海警備隊と専ら警備に關し第一三軍直轄下に上海附近の警備に任す。

敵司令部は上海共同租界に位置し上海防衛隊として上海市街の警備に任す。

独立歩兵第一二大隊、同一一三大隊、同一一四大隊は第一六〇師団の直轄となり独立歩兵第一五〇大隊の外に左の部隊を配属せしめらる。

第一六兵站警備隊

特設工兵第一一中隊

敵團長陸軍少將蒲池安昌が三師団兵務部長として離任、後任陸軍少將北川一夫着任す。

敵團長陸軍少將北川一夫台湾高尾独立混成敵團長として離任、后任陸軍少將

計	軍 風	兵	下 士 官	准 士 官
二〇九	一	一六九	三〇	二
九		八	一	
二			一	
五九		四七	八	
三		二	一	
二			一	
二	一			
四		一	一	

(65)

2053

昭和三十一

三、三三

三、三三、三三

特種事項

御下賜品（清田御禮草）拝受

液田親陸軍少將 山口三郎以下四名

表田勤勝として上海に飛出 廿日 上陸

残務整理者として副官大尉合井義雄書記曹長 前田照正 二日市町役員本郷

に在りて整理に在す 月 日 完了す

独立歩兵第51大隊略

年月日	昭五、四、二〇 昭五、四、二〇 二四、一〇
概	<p>編成</p> <p>第6十師團創設と同時に江蘇省宣興県宣興に於て編成完結</p> <p>(独立混成第11旅団所屬、独立歩兵第51大隊基幹の復帰並編成)</p> <p>編成の概要</p> <p>本部</p> <p>歩兵中隊五(名二〇四 小銃輕機槍彈筒)</p> <p>機関銃中隊一(重機銃八挺)</p> <p>歩兵砲中隊一(連隊砲二門大隊砲四門)</p> <p>行動の概要</p> <p>江蘇省宣興地区警備</p> <p>(大隊長陸軍中佐 高階於免雄)</p>

(66)

2054

昭六四、三	稷駐のため宣興出發
四、一七	江蘇省救江着 同日太湖東南より一期清郷工作に参加
九、二八 五、一五	主力を以て廣徳作戦に参加（大隊長、陸軍大佐 林英一尉） 引越さ松江に在りて清郷工作に從事
五、六、二 七、三	湘桂作戦衝鋒隊に参加（主力、九七十師田配履）
七、二五	主力を以て温州攻勢戦に参加、尔後温州に於て光号作戦準備。（大隊長林大佐、副隊長送大隊長、陸軍大佐、瀬尾浩） 九三、九五中隊引越松江嘉定警備
昭六三、二八	軍令陸甲才十八号に據り独立歩兵九五十大隊缺数補填、編成完結、（松江に於て、九三、九五中隊を基幹として編成、在温州部隊は被混八九旅歩五二五大隊に改編）（大隊長 陸軍大尉 青島武人）
昭六三、二四 八一五	上海市衛戍警備（九十三軍直轄上海防衛司令官兼兼下）より光号作戦準備 終戦一六詔を拝す 復員の情况

昭三三二四
出言、六一一
一、二四

2/1

軍命に依り部隊長を除く全部内地帰還の爲上海港出帆
佐世保港上陸

- 1. 乗船部隊輸送指揮官 大久保大尉以下一〇〇八名
- 2. 満期召集解除者 陸軍大尉 沢崎義之以下一〇〇三名
- 3. 残留者

LST内米國側要所に在る補助員

陸軍少尉 北原如一 (東京)

陸軍少尉 町田清 (山口)

陸軍衛生兵 渡辺忠吉 (福島)

業務整理者

陸軍大尉 大久保 律郎 陸軍曹長 畑崎茂矩

中支出 20

昭五、四、二〇

編成年月日

独立歩兵第百五十大隊

通称号

第百五十三部隊

編成地

中華民国江蘇省吳県

蘇州

兵備改編

昭五、三、二八

軍令陸甲第百十八号に依り旅団編成改制完結

(大隊主力(本部/24/49A))

昭五、三、二八以降浙閩沿岸作戦に参加の独立歩兵第百二十五大隊を編成、残部一五三(左基幹とし旅団編成)

部隊の行動

軍令陸甲第百十八号に依り旅団編成改制し新に百六十師団歩兵第百五十大隊団長一線下に入る。

昭和三十四年 六月一日	昭和三十七年 五月三十一日	昭和六十二年 七月三十一日	昭和二十七年	昭和三十三年 九月二日	昭和二十四年 三月一日
当初の駐屯地	中支江蘇省自來水局	自來水ありて地区警備	江蘇省故江蘇省江にありて太湖東南方一期清郷工作に参加（左記作戦前を除く）	湘桂作戦に、八、一八あり	浙閩沿岸作戦に参加
				上海地区警備	一部内地帰還ハ三月一日主力内地帰還復員完結

<p>昭三、四二〇 昭三、四二〇 昭三、四二〇</p>	<p>年月日</p>	<p>昭三、四二〇</p>
<p>江蘇省宜興縣和所鎮周埭地區程紺新部隊 對仗戰に参加</p>	<p>行動の概要</p>	<p>獨立歩兵第百五十六隊 (予百三三三三部隊) 編成完結 厂代動隊長官氏名 百一代 陸軍大佐 高階 於色雄 百二代 陸軍大佐 林 友一郎 百三代 陸軍大佐 瀬 尾 浩 百四代 陸軍大尉 青 島 武 人</p>
<p>一二七四名</p>	<p>摘要</p>	

(72)

2059

<p>昭三、三四 昭九、二二</p>	<p>昭三、三三</p>	<p>昭三、三八</p>	<p>昭三、三六 昭三、三七</p>	<p>昭三、三六 昭三、三七</p>	<p>昭三、三六 昭三、三七</p>	
<p>上海地区の警備</p>		<p>編成完結</p>	<p>軍令陸甲カ十八号に依り独立歩兵カ五十大隊缺数補填</p>	<p>大隊主力（三中队缺）浙甬沿岸作戦に参加</p>	<p>湘桂作戦（衛州作戦）に参加</p>	<p>移駐のため江蘇省宣兵出発 蘇州にありて師団清郷工作教育 江蘇省松江界松江にありて太湖東南 （左部作戦期間を除く、カ一期清郷工作に参加</p>
			<p>大隊主力（一）作戦 参加の終次一節（三） 五基幹として部隊缺数 補填済ます</p>			

片方 2

	<p>軍令陸甲オ一六号に依り全員復員を命令せりる。</p>	
<p>出三、一、一 一四</p>	<p>復員行動の状況</p> <p>大久保大尉以下一〇〇八名 15T に乗船上海出帆</p> <p>佐世保上陸</p> <p>浜騎大尉以下一〇〇三名除隊召集解除</p> <p>大久保大尉以下二名残務整理の為復員本部に残留北原軍医以下三名水軍の由により航行間船内勤務のため残留す。</p> <p>残務整理者、岡崎曹長は一、</p> <p>大久保大尉は二、日夫々除隊召集解除</p> <p>大隊長青島大尉以下五名内地帰還のため上海港出帆</p> <p>傳又上陸</p> <p>三木軍曹以下三名除隊召集解除</p> <p>大隊長青島大尉以下二名残務整理のため復員本部に残留又復員時の人質左の</p>	
<p>出三、一、二八 一三〇</p>		

(3)

2061

印文外 21

11

		和
		総人員 一六七三名
内訳		
1. 内地除隊者		一〇一〇名
2. 現地除隊者		一五七
3. 転強者		三〇一
4. 入院患者		一五三
5. 生先不明者		六
6. 死亡者		四二
7. 残留者		三

(76)

1408

2062

第六十師団独立歩兵才百十二大隊累尸

陸軍少佐 西垣正温

年月日	昭七年 昭七、四一 四八 五一〇
概要	<p>部隊名 才六十師団独立歩兵才一一二大隊 通称号 才才三八五一部隊 才代大隊長官氏名 才一 代 陸軍中佐 弘中 勝 才二 代 陸軍少佐 西垣 正温 編成完結の状況 軍令陸甲才八号に依り 近任兵才三聯隊補充隊に於て編成着手 編成完結 行動の概要 東京品川家出発</p>

(??)

2063

昭五、五二八	昭五、三二七	八一〇	七二四	五二七	五二四	昭五、五二五
江蘇省清熟県太倉県に駐進し同地区の警備並に対米英作戦準備	同地区の警備	江蘇省海内県啓東県に駐進独立歩兵カ二百三十四大隊と警備交代	同地区の警備	独立歩兵カ八九大隊と警備交代同地区の清郷工作に従事	中支那江蘇省崑崙山界太倉県に進駐	釜山上陸 安東通燭 山海通燭 中支那江蘇省呉興縣蘇州に到着 カ六十師団歩兵カ五十六旅団長カ部下に入る

中支

	<p>昭和三十四 三三三三 二一五 二一五</p> <p>停戦命令下令 復員帰還のため上海出発 渡島島海上陸 復員院結解散</p>
--	---

第六十師団独立歩兵中隊第十三大隊裏丁

陸軍少佐 原 武治

年月日	概 要
<p>昭七、二 四、一 四八</p>	<p>編成号 中才三八五ニ部隊 丁代大隊長及服務期間</p> <p>中才一代 昭七、四、一 陸軍中佐 村 朋 善太郎 中才二代 〃八、四、二〇 〃大佐 徳 本 光 信 中才三代 〃一五、八、三三 〃少佐 原 武 治</p> <p>編成完結の状況 軍令陸甲中才八号に依り 近知歩兵中隊補充隊に於て編成着手 編成完結 編成時に於ける部隊人員並中隊長官氏名</p>

史外 22

各隊長官氏名

四 五	將 技	一 四	准 士官	一 三 五	下 士官	一 〇 八 〇	兵	一 二 七 四	總 人員
--------	--------	--------	---------	-------------	---------	------------------	---	------------------	---------

大隊長	陸軍中佐	村岡善太郎
副官	陸軍中尉	黒田嘉治
才一中隊長	"	向津正顯
才二 "	"	淺川博文
才三 "	"	新出 耕
才四 "	"	四分 一二三
才五 "	"	板橋 省次
代崗銃中隊長	"	平野 富藏
歩兵砲中隊長	"	石原 万助

昭三、五八	宇后港出航
五一一	山海尉通燈ノ六十市田長の兼下に入る。
五三三	吳淞着歩兵中隊大隊団長の部下に入り主力を以て南漕奉賢金山地区の警備一部（中隊歩兵砲中隊）を旅団直轄とし崇明上海市附近の警備に任ず
九一	南漕奉賢地区清野工作開始
一一三	補充員五三名内地補充部隊より到着
昭六、三五	昭一七年渡倭兼現役兵三〇八名内地補充部隊より到着
四三〇	大隊長 村岡中佐転任
五三	後任大隊長 徳本大佐着任
五二五	下士官以下一六五名内地帰還
九	竹内中尉以下一ヶ中隊（混成一八〇名）を徳作戦のため独歩中隊五十大隊長の指揮に入る。
百二五	補充員九六名内地補充部隊より到着
一一	新田中尉以下六名内地補充部隊に転属

三	下士官以下三〇名内地帰還
四九、二七	比一八年及後継乗環役兵三二一名内地補充部隊より到着
六二〇	上海滞留人員（入院死没の係を含む）七〇名転入
七八	補充員一八七名内地補充部隊より到着
五	独歩五〇大隊作戦参加の烏合山、板江、嘉定、宝山地区整備を引継ぐ
八	温州作戦参加の海軍五中隊（中隊長峰岸中尉以下一三〇名）独歩歩兵五〇大隊長の指揮に入る、 後同大隊に転属
八三三	大隊長徳本大佐転出
八三七	後任大隊長原少佐着任
九一五	下士官以下三〇名内地帰還
一〇	補充員九六名内地補充部隊より到着
二一三	新出中尉以下六名内地補充部隊に転属
五下旬	金山衛拓林附近の築城実施

(83)

2069

昭三、一〇	昭一九年徽象現役兵二八〇名内地補充部隊より到着
一、下旬	松江附近築城開始
二、二八	市橋中尉以下二五〇名独立警備隊五大隊要員として転校
三、中旬	嘉定、新領地区築城開始
三、	直取隊滞留人員七五〇名転入 次敷中隊神境のたけ編成
三、二五	香浦松江、金山、奉賢申江南滙樂の警備 を才ヒロ師団に委託し嘉定羅石鎮石鎮附近に移駐
四、二〇	嘉定金山界の警備を才六九師団に移譲し浙甯福山鎮附近に移駐同地築城開始
八、一四	停戦に関する大詔喚発
九、一	蘇州築城
九、二	停戦命令下令
停戦時に於ける隊次次の如し	
大隊長	陸軍少佐
原	武治

(59)

2070

三六	二五	二二	昭三、一、三一	九	副官	陸軍大尉	桑畑 深三郎
					中隊長		雷田 茂三
					中	中尉	川田 燭
					中	大尉	島田 節翁
					中		根岸 一雄
					中		植草 藤太郎
					中隊長		高橋 吉藏
					歩兵砲		宮崎 忠四郎
					竹内大尉以下七八名現地除隊		
					朝鮮出身兵大山少尉以下八四名中六〇師団司令部に転出		
					復員のため上海出帆		
					佐世保上陸		
					復員式解散		
					復員時に於ける部隊人員の状況		

總員 一九七二名

内地 現地除隊 七八名

内地 〃 一六五〃

戦没者 五四四〃

入院 一八〃

生死不明 一三〃

所在不詳 九〃

死没者 五〇〃

(簡表以外に八五名あり)

年月日	<p>第六十師團獨立歩兵中隊十四大隊署 陸軍少佐 長藤 丈夫</p>
<p>四一 四八</p>	<p>通称号 予中三八五三部隊 丁代大隊長官氏名</p> <p>カ一 代 陸軍大佐 菊池 芝之助 カ二 代 中佐 山本 琢雄 カ三 代 大尉 坂本 彰文 カ四 代 少佐 長藤 丈夫</p> <p>編成完結の状況 軍令陸甲中八号に依り 五五歩兵中隊大隊補充隊に於て編成着手、 編成完結</p>

<p>作 勤</p>	<p>五、一〇 東京市川駅出張 五、一三 宇品港出帆 五、一四 釜山港上陸 五、一五 釜山出發 五、一七 鮮滿口虎（安東）通過 五、一九 滿支（山崗） 五、二二 中支那江蘇省吳興縣蘇州に到着 六、一 中支那浙江省、嘉興縣嘉興に陸駐 六、一 独立歩兵中八九大隊と交代同地区警備並に清郷工作に 從事 一、一、三 補充員五二名延任歩兵中五連隊補充隊より到着</p>	<p>摘 要</p>	<p>一、二、七、四名 大隊本部嘉興 補充員 二五名 未 〃 二七名</p>
------------	---	------------	---

中支外 24

昭六三六	昭一七年度、徵集現徴兵三〇八名、近歩兵才五陸隊補
三二八	充隊より嘉沢に到着 才六十師團作命に基き、現駐の為、浙江省嘉沢果嘉沢出発
四・四	吳淞港出帆
〃	江蘇省南通果天生港上陸
四・五	〃 〃 南通に陸駐
四二〇	独立歩兵才五三大隊と交代、同地区の警備に従事 大隊長陸軍大佐菊池芳之助、東部軍司令部附近に転補、後任
五一八	大隊長陸軍中佐山本恭雄補任
五二五	善任す
六一	下士官以下一六五名内地帰還
七二六	蘇北地区才一期清郷工作始まる之に従事
補充員下士官以下一八七名、近歩兵才五陸隊補充隊より到着	未教育一四五名
召集解除の目的に依る。	

九一五	下士官以下三一六名内地帰還	召集解除の目的に依る
百一	兵科見習士官山口義計以下九名転入	未教育補充兵
百二五	補充員兵九六名匠匠歩兵ヲ五連隊補充隊より到着	召集解除の目的に依る
一一三	中尉荒塚忠雄以下六名匠匠歩兵ヲ五連隊補充隊に転任	未教育補充兵
一一〇	下士官以下一二名内地帰還	召集解除の目的に依る
昭五二七	昭五年度徵集現役兵三二一名匠匠歩兵ヲ五連隊補充隊より到着	未教育補充兵
四二〇	同時に半島出身現役兵一九名到着 補充員として戦車中隊より中尉田中望治以下三六名到着	未教育補充兵
七一三	補充員として匠匠歩兵ヲ五連隊補充隊より二八〇名到着	未教育補充兵
昭五六一三	昭十九年度徵集現役兵二三八名匠匠歩兵ヲ五連隊補充隊より到着 同時に半島出身現役兵六〇名到着	未教育補充兵

中文内容

三三八	中野志村義雄以下六一九名被立醫備才大大隊に転属
田中望治	三二名独立歩兵才五十 大隊に転属
橋本軍医中尉以下三六名才六〇師団工兵隊に転属	
主計少尉五味大和以下六四名才六〇師団迫撃砲隊に転属	
兵	
下士官以下六五名迫撃砲才二十六大隊に転属	
三二六	大隊長陸軍中佐山本茂雄陸軍少佐學校付に転属
後任大隊長陸軍大尉服部彰文補任	
三二一	補任
三二八	才六〇師団作索に差込殺生の為江蘇省南極果、南極出發
發	
四二	江蘇省南極果天生港出帆
四九	大倉果大倉並に常盤果に殺生
独立歩兵才四大大隊と交代警備並に治安維持に任ず	

四二五	才大り師団作命に奉じ移駐の爲江蘇省大名渠大倉出発
四三〇	江蘇省州陽渠州陽に移駐し鎮江、卅陽、楊中界地区舊 備並に治安維持に任ず
六二七	大隊長陸軍大尉那部彰文東海軍司令部附駐補修任陸軍 少佐長藤文夫兼任す
八一四	平和活版に關する大詔喚起せりる
八一七	軍令陸甲ヤ一六号に依り全軍換員を令せりる
八二〇	軍医少尉矢野知以下八二名現地除隊及召集解除
九二二	待隊命令下る
九二八	江蘇省吳縣蘇州に移駐
九三三	主計中尉神谷利治以下二名現地除隊及召集解除
一〇三〇	少尉高木恒男以下二名現地召集解除
昭三、一、三二	半島出身者少尉金城啓秀以下六〇名才六十師團に數度 復員帰還の爲上海港出帆
二二	
	一、〇九二名

	三 五 〃
	復員完結解散 在港上陸
	一〇九二名

目次

(P3)

2079

独立歩兵第四大隊 略歴

年月日	概 要
三二八	<p>軍令陸甲才一八号(編成改正)に依り中華民國江蘇省吳縣蘇州に於て編成 結 編成人員 八二八名</p>
四一四	<p>被補才六〇師団砲重砲隊長 陸軍大尉 戸谷 彬 雄</p>
四一四 八一四	<p>光号作戦準備並に治安の確保 陸軍兵科見習士官 龜 山 一 郎 以下三名</p>
五三一	<p>才九十波田砲兵隊に転出 陸軍兵長 百永次男以下一七名</p>
六一五	<p>中支那砲兵教育隊に転出 陸軍軍曹 鈴木正二 以下三名 本土兵備要員として転出</p>

中支内 26

(94)

六一八	陸軍軍曹 池田源右士門 以下一〇名 下士官補充として参入
七一四	中華民國江蘇省常熟縣常熟に於て築城作業
昭三、三、三	吳興蘇州に於て復員準備
陸軍一等兵 阿瀬知秀光 以下一三名	中支那憲兵教育隊に参出
昭三、二、〇	陸軍大尉 加藤 純 以下一〇〇名
才六十師田坂勇馬隊に参出	陸軍中尉 原 久行
免才六十師田坂惠砲隊中隊長	陸軍少尉 小塚 茂次郎
朝日 徽	補才六十師田坂惠砲隊中隊長
三、三、一三	陸軍少尉 渋川行雄 以下二九名 才六十師田司令部に参出

三四	移駐の爲中華民国江蘇省吳淞蘇州出發
三七	上海集結
三一	内地帰還の爲部隊長陸軍大尉戸谷悦雄以下六八四名 上海落出帆
三三	佐世保港上陸
三三	陸軍大尉 川瀬真一 以下六八二名内地部隊
三三	部隊長 陸軍大尉 戸谷悦雄以下二名 残務整理の爲 復員本部に飛函
	上陸時人員
	將 校 一四 名
	准士官 六四 名
	兵 六〇六 名
	計 六八四 名

(96)

3808

2082

自支外之

國有部隊名

第六十師田垣基砲隊

種別号

予才三三一三ロ部隊

財三二八

編成年月日

編成地

中華民國江蘇省吳興蘇州

編成

(編制改正)

軍令陸甲才一八号に依り編成担任官独歩才四六大隊隊長昭20.3月以降

逐次北中支より兵員到着

大隊長 20.4.14着任 概ね完備す

現地に編成

渡支当初駐屯 蘇州

行 動

(71)

2083

甲辰カ 27

12

1

昭三二八	編成尔后六月未迄蘇州にありて整備
昭三六一	常熟附近築城実施台引続き蘇州にありて復員準備
三三四	上海に復駐
三三一	内地帰還の為上海出発
三二三	佐世保上陸

(88)

2084

昭和三十四年三月	九二五名
昭和三十四年三月	陸軍大尉栗原芳郎隊長として首任
昭和三十四年三月	部隊主力蘇州、西方地区陣地構築作業
昭和三十四年三月	終戦
昭和三十四年三月	復員帰還のため蘇州出発
昭和三十四年三月	上海留駐
昭和三十四年三月	内地帰還のため上海港出帆
昭和三十四年三月	鹿兒島港上陸

2507

(102)

2086